



《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson (カナダ)
 "Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」
 Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)
 "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
 北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」
 会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.258 会津通信>
 2016年10月12日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇10月の聖句 ◇

喜びを抱く心はからだを養うが 霊が沈みこんでいると骨までかれる。 箴言17章22節

10月例会プログラム

司会；高橋 真美ウイメン

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | 青山孝男会長 |
| 5. 聖 句 朗 読 | 高橋 カヲ |
| 6. 食前感謝 | 高橋 カヲ |
| 7. 会 食 | |
| 8. ゲストスピーチ | 町田 久次氏 |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| 10/2 青山孝男ウイメン | |
| あかべこ | |
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |

感覚を研ぎ澄ませて 高橋真人

この10月で105歳となった聖路加国際病院名誉院長の日野原重明さんが、このような文章を書いています。

「私のように105歳にもなると、正常値とか平均値という数値だけで健康を計ることはできません。それらは大抵、働き盛りの人たちを目安に設定されたものだからです。では今の私がどうやって自らの体調を知るのかと言えば、ズバリ『私が健康だと思う実感そのもの』が『はかり』の役目を果たすのです。つまり私が私の身体を感じ取るセンサーを鋭く研ぎ澄ませます。それを心がけるしかありません。」



身体だけではなく、今の世の中の動きに対しても、実際に現れてくる前に「おかしいんじゃないか？」と感じる感覚が大事なのだと、日野原さんの言葉によって改めて思った次第です。

「みんなで讃えようじゃありませんか！」などと国会で拍手を送るようなことには大いに違和感を覚える、大事な感覚だと思います。

(次回は高橋京子ウイメンです)

< 9月例会出席状況 >

在 籍 者 5名 ゲスト0名
 出 席 者 5名 ネット0名
 *8月例会出席率 100%
 あ か べ こ 4,000 円
 16-17 年度合計 13,000 円

☆ 強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

会津クラブ例会

<ゲストスピーチ>プロフィール

町田久次氏

福島県会津美里町生まれ。新潟大学人文学部卒業。昭和46年福島民友新聞社入社、編集・報道記者、広告局次長、経理局長、取締役などを経て、平成23年定年退職。筆歴=平成25年度福島県文学賞ノンフィクション部門正賞、平成24年度同小説部門準賞など。



会津だより

「少年の主張会津若松市大会」最優秀賞に輝いた中学生の作品を紹介します。(後半)

故郷の誇り 河東中3年 武内 優貴さん

その瞬間、私の目に懐かしい光景が飛び込んできました。通っていた小学校、そこに貼り出された自分の名前、ピアノ教室に行く途中で毎回見ていた看板、当たりが出るまでおやつを買った行きつけの駄菓子屋。「ああ、やっぱり私の故郷はここなんだなあ。」と胸がいっぱいになりました。

いよいよ、五年ぶりの帰宅です。ドアを開けて「ただいま。」と言いました。防護服の暑さで体はベタベタでしたが、昔遊んでいた人形や思い出の絵本が私を待っていて、とても幸せでした。ただ、今回は持って帰れませんでした。置きっ放しだった物には放射性物質が付着しているかもと言われたからです。帰り道、父は私を海に連れて行きました。浜の風に心地よさと懐かしさを感じながらも、あの日見た津波の光景が思い出され、心が苦しくなりました。

あれから五年。東日本大震災はまだ終わっていません。故郷に帰れないでいる人、諦めるしかない人はたくさんいます。復興のため、被災地で今も戦っている人、耐え抜き苦しみ抜いている人がたくさんいます。それなのに、震災がもう過去のことと思いつ込み、「賠償金たくさんもらってるんでしょ。もういいじゃん。」と言ってくる人がいてとても悲しくなりました。いくらお金をもらっても、いくらそのお金で再スタートを切ることができても、故郷の姿がもう元にもどることはありません。いえ、私達はあの震災を忘れてはいけないのではないのでしょうか。忘れないでください。あの日、大津波と原発事故が福島を襲ったことを。

忘れないでください。「がんばっぺ福島」を合言

葉に、福島の人たちが立ちあがったことを。そして皆さん、時には思い出してください。故郷の誇りをかけて頑張るあなた自身のことを。(原文のまま)

「ユニークダンスつばさ」フェスティバルに参加



(次号で報告します)

会津の先人たちをシリーズで紹介します

南洋開発にかけた一生
松江 春次(まつえ はるじ)ー最終
「青年に投資する」

成功した春次は、成金趣味を持たず質素な生活を続け、育英事業に私財を投じました。自分



の苦難の経験から「青年に投資する」を持論とし、故郷の会津工業高校へは33万円(現在の数億円に相当)を寄付しています。同校は機械科を創設、講堂などを大増築し、多くの人材を輩出しました。

「生来無一物(しょうらいむいちぶつ)」

大戦の戦火が広がる昭和18年、春次は67歳で会社の経営を下りています。間もなくサイパンは占領され、敗戦で財産をほとんど失いました。晩年は「生来無一物」と大書し、サイパンへの郷愁を抱きながら、酒を酌み交わすことが楽しみでした。昭和29年(1954)に78歳で永眠しました。

今回は、
第9代若松市長・板東俘虜(ばんどうふりよ)収容所長
松江豊久(まつえ とよひさ)氏

◆ 今後の予定 ◆

◇ワグ 11月例会 11月9日午後7時～

◇ユニークダンス

施設訪問 11月10日 場所:敬愛苑 午後2時～
例会 11月23日 場所;アガッゼ 午後7時

